～ 若い力で養豚施設を復旧 ～

（取組主体名） 農事組合法人 高清水養豚組合
（所　在　地） 宮城県栗原市高清水地区

～ 復興取組事例 ～
東日本大震災農業生産対策交付金活用事例

＜平成３０年８月 一部更新＞

■ 組織のプロフィール

農事組合法人高清水養豚組合は昭和47年に設立し、栗原市内で養豚経営を開始（構成員４名、従業員15名）。

経営規模は母豚400頭で、年商約３億円。敷地面積６ha。

被 災 の 概 要

- 栗原市高清水地区は、平成23年３月11日、同年４月７日に震度６強の２度の地震に見舞われ建物の倒壊や多数の道路が損壊。
- 養豚施設も、豚舎１棟と堆肥舎が地震の地滑りで全壊。豚舎１棟と尿処理施設が地震の揺れで一部損壊するなど甚大な被害を受ける。

1．取組のきっかけ

- 20代から30代の若い世代の従業員が多い会社であることから、養豚産業を担う若い従業員の将来のため、被災前と同規模での経営再建を決意。
- 震災前の同等規模への復旧には、多額の投資を必要とすることから、経営規模の縮小も検討したが、施設復旧に向けて、非番の者を含めた従業員全員による自発的かつ精力的な瓦礫の処理などの取り組みがあった。

2．取組の内容と特徴

- 従業員による復旧作業に努めるとともに、東日本大震災農業生産対策交付金を活用し、被災した豚舎、堆肥舎、尿処理施設の補修・整備を実施。平成24年３月に完成。
- その間、豚を処分することなく生産を継続できたのは、提携農場（サイボク東北農場）に肉豚を預けることができたこと、飼料の在庫があったこと、特殊車両の認可を取得できたことで家畜運搬車両の燃料を優先的に入手できたことなど。

【事業内容】
豚舎、堆肥舎、尿処理施設の補修・整備
【東日本大震災農業生産対策交付金】…77,150（千円）
【宮城県農業生産復旧緊急対策事業補助金】…38,575（千円）（公益財団法人ヤマト福祉財団による「東日本大震災・産業基盤復興再生助成金」に基づく）

経営再開の状況等

- 提携農場に預けた母豚を復旧豚舎に戻し、震災前の母豚400頭規模に拡大。
- 現在は、震災前の月平均約750頭を出荷するまでに復旧。
- ブランド豚「32℃豚」をオンラインショップで展開中。

3．これまでの苦労話

- 若い従業員のために１日でも早い再建（平成23年12月完成）を目指したが、復興需要の影響から、入札業者の決定に時間を要したため施設の完成が平成24年３月となった。

4．課題と今後の展望

- 現在は、提携会社のブランド名で豚肉を販売しているが、新たな経営の展開として、震災前から計画していた自社ブランド「32℃豚」をオンラインショップで展開中。
- 自社ブランド「32℃豚」は、自社の「エコフィード Factory 高清水」で製めん残さなどから生産した飼料原料と、飼料用米等を(株)サイボク飼料で配合した飼料を給与した環境に優しい豚です。

参考資料　［農事組合法人 高清水養豚組合］

現場写真

豚舎被害状況

新築豚舎（事業対象施設）

堆肥舎被害状況

新築堆肥舎（事業対象施設）

地滑り箇所の整備

整備後（更地）

高清水養豚組合の皆さん

32℃豚HP　https://www.32dobuta.com/